

—青梅市立小学校へ就学する
お子さんの保護者のみなさまへ—

楽しい学校生活を送るために

—相談してみませんか あなたの心配—

小学校でみんなと一緒
にやっていたいけるの
だろうか？
心配だ……



こんな心配、ありませんか？

庭の片隅に春を待ちきれないチューリップの芽がちょこんと顔を出して、日一日と春の訪れが感じられます。
小学校入学の日が近づくにつれ、こんな心配はありませんか。



- 注意力が散漫であったり、落ち着きがなく、つねに動きまわっている。じっとしてられない。
- 聞く、話す、読む、書くなどの中で、特定の活動がよく分からない。
- 人とのコミュニケーションがうまくできなかつたり、特定のものにこだわったりする。等

小学校は、主に多くの友達と一緒に行動します。「うちの子は本当についていけるのかちょっと気にかかる。」「誰かに相談したいけど……。」そんな心配があったら、相談してみませんか。



平成21年12月
青梅市教育委員会



楽しい学校生活を送るために・・・



特別な支援が必要なお子さんといっても、特別な子供ではありません。これから小学校に入学すると、みんなと一緒に行動する機会がとて多くなります。人はだれでも苦手なことがあるものですが、特別な支援を必要とするお子さんは、他の子供たちより少し苦手なことが多かったり、みんなと一緒に決められた時間内に行動できなかったり、数字や漢字には強いのに、整理整頓や着替えにとて時間がかったりすることもあります。このようなお子さんは、できて当たり前と思われがちなことできないことで、自信をなくしてしまい悲しい思いをすることがあります。お子さんのよいところを伸ばし、お子さんのペースに合わせた楽しい学校生活が送れるようにするために、お子さんに合った学校、学級を選ぶことを一緒に考えましょう。



お子さんに合った学校、学級は・・・



◇通常の学級

公立の小学校の通常の学級です。学年ごとに学習計画が決まっており、学級内での全体指導（一斉指導）やグループによる学習が中心となります。また、班活動や係活動など集団生活の中での学習が中心となります。

◇特別支援学級（通級指導学級）

通常の学級に在籍しながら、必要に応じて週1回数時間程度、通級指導学級に通い、個別に指導を受け、苦手なところを克服していきます。

青梅市の
通級指導学級

○情緒障害等

第六小(わかすぎ学級) 若草小(わかくさ学級) 友田小(くわのき学級)

藤橋小(ふじのみ学級) 吹上小(ふきあげ学級)

○言語障害・難聴

河辺小(ことばときこえの教室)

◇特別支援学級（固定学級）

学習活動の全部を小学校に設置された特別支援学級に在籍して指導を受けます。少人数での学級編成で、お子さんのペースや実態に合ったきめ細かな指導や支援を行います。

青梅市の
特別支援学級

○知的障害

第一小(びあじえ学級) 第三小(かすみ学級) 第四小(つくし学級)

○自閉症・情緒障害 若草小(わかくさ学級) 第二小(平成22年4月開級予定)

◇特別支援学校

視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱・知的障害等のあるお子さんが対象となる学校です。そのお子さんのもつ力を伸ばすために、個々のニーズに応じた指導や支援を行います。

青梅市内および周辺
の都立特別支援学校

都立青峰学園 都立羽村特別支援学校 都立あきる野学園

都立立川ろう学校 都立八王子盲学校

◆◆◆ 保護者の気持ち ◆◆◆

「わが子には特別な支援が必要かもしれない。でも、みんなと違うのはかわいそう。みんなといっしょに通常の学級に行かせたい。」こんなふうに「みんなといっしょ」を望む保護者の声を聞くことは少なくありません。しかし、このような願いだけを優先してしまうことでお子さんが苦しむことがあります。専門家や教育相談所、就学相談室など右側のページの機関と連携し、未来のお子さんの姿を想像して、「今どんな教育が必要なのか」を一緒に考えましょう。





こんな心配はありませんか...

《コミュニケーション》

おかあさんとのやりとりより、一人でしゃべり続ける、友達に興味を示さない。呼びかけても無関心、衝動的な攻撃やパニックがある。同年齢の友達の中では自分を出さず相手の思うままになっているなど、一方通行な感じがある。



《言葉・興味》

おしゃべりは好きだが、人の名前や物の名前など興味にかたよりがあったり、一人の世界が好きで、人に興味を示さない場合や、こちらからの呼びかけに回答することが少ない、こだわりが多い、話したすと一方的で止まらないなどということがある。



《生活習慣》

一人で着替えられなかったり、箸やスプーンが使えなかったり、一人でトイレに行けなかったりするなど、繰り返し教えても基本的な生活習慣が身に付かない。



《感情》

食品、おもちゃ、特定の道に執着するなど、強いこだわりがある。一度言い出したらきかない、泣きやまない。一方通行でしか自分の気持ちを出していない。引っ込みがつかない。気に入らないとパニックになって泣き出すことなどがある。



相談してみませんか あなたの心配

今の健康状態やからだの動き。友達や他の人との接し方。毎日の生活の中で、気になること、学校に行くのに不安を感じていることを気軽に相談してみませんか。



<p>教育相談所 22-1111 内線640</p> <p>就学相談室 22-1111 内線663</p>	<p>子ども家庭 支援センター 24-2126</p>	<p>西多摩保健所 22-6141</p>	<p>都立青峰学園 32-3811</p> <p>都立羽村特別支援学校 042-554-0829</p> <p>都立あさる野学園 042-558-0222</p>
---	-------------------------------------	---------------------------	---



特別な教育支援を必要とする子供たちの小学校入学までの流れ

特別な教育支援を必要とするお子さんの小学校入学までの流れと相談等のポイントは、下図のようになります。(このリーフレットでは、児童福祉法に規定する保育所を保育園と記載しています。)

幼稚園、保育園等で子供の生活や遊びの様子を把握する。	幼稚園、保育園等での実際の生活を見学させてもらったり、先生や保育士に相談してみましょう。
専門家の巡回相談を利用したり、教育相談所等に相談したりする。	教育相談所や幼稚園、保育園等において、専門家による巡回相談が行われていますので、園に相談をしてみてもよいでしょう。
就学相談室から連絡をとってもらい学校を見学する。	自分のお子さんがここで楽しい学校生活が送れるか、全体の雰囲気をつかんでおきましょう。
就学時健康診断を受ける。また教育委員会にて就学相談を受ける。その後、就学先を決定する。	就学時健康診断で、お子さんの健康状況を把握し、就学相談室で入学先の学校について相談しましょう。
保護者、幼稚園、保育園等で「就学支援シート」を記入し教育委員会を通して就学先に提出する。	お子さんが楽しい学校生活を送るために、配慮してきたことや苦手なこと、得意なことなどをシートに記入しましょう。
小学校は「就学支援シート」にもとづき、児童が楽しい学校生活を送れるよう支援体制を整える。	お子さんが楽しい学校生活を送れるようにするための手立てについて、学校と話し合しましょう。

どのような就学先を選択するにしても、家族で十分に話し合うことが大切です。就学相談は就学先が決まされるまで継続して行われます。お子さんにとってどのような就学先が最も適切なのかを考えながら、相談を進めましょう。



◆お子さんのことで相談する時のポイント

- ・現在、困っていること、悩んでいることを整理しておきましょう。メモに書いておけば、さらに相談しやすくなります。
- ・聞きたい事柄に優先順位を付けておきましょう。



—楽しい子育て—

小学校に入学すると、いよいよ本格的な集団生活が始まります。

子供たちの中には、基本的なルールの理解に時間のかかるお子さんがいます。

時間割はチャイムによって区切られているとか、授業中は席を立たないとか、係りの活動があることなど、一見あたりまえのように感じるルールが理解できないために、本人に全く悪気はないのに集団生活を乱してしまうことがあります。

もし、お子さんにこういう特徴があった場合、何が分かっていて何を教えていけばよいのか、まわりがどう伝えれば本人が納得できるのかを、担任や保健室の先生など複数の先生方と一緒に考えましょう。

わかればできる、練習すればきちんとできるお子さんなのです。